

6. 取組内容の進捗状況（平成30年度）

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 外国人学生数の拡大とサポートの充実

- 平成25年度(本事業開始前/通年)の313名から平成30年度は866名と2.8倍に拡大。ブラジルの高校とも指定校推薦入試協定を締結へ向けて準備(令和元年8月締結予定)。
- 外国人学生の増加に伴い、より充実した教育・生活環境を提供するための中心拠点となる「留学生サポートセンター」の機能として、学生相談室に外国語対応可能なメンタルカウンセラー等を配置している。

○ 日本人学生の海外留学促進

- 単位認定を伴う日本人学生の派遣者数について、平成25年度(本事業開始前)の557名から平成30年度は875名と1.6倍に拡大した。平成30年度には新たに16大学と交流協定を締結し、本学の海外交流大学は61ヶ国地域212大学となり、カリキュラムと連動した学部主催の留学プログラムも法学部、看護学部、国際教養学部で新たに開発した。
- 本学が海外事務所を設置したイースト大学(フィリピン)において、本学ワールドランゲージセンター主催の研修を新設し、平成30年度は90人を超える学生が参加した。
- 海外短期研修の効果を測定するため、「VALUEルーブリック」の他、プログラムの客観的測定手段として米国を中心に高等教育機関で広く取り入れられているBEVIテストの日本語版(BEVI-j)の運用を開始した。
- 教職員を対象に、海外で学生が不測の事態に遭遇した際の対応策を検討する「海外危機管理シミュレーション研修」を平成30年7月に実施した。理事長、学長等の本学首脳も参加し、対策本部および各対応(ご家族、派遣、広報渉外、学内庶務など)の役割分担および情報収集、課題の整理、対応策などを確認した。

○ 海外拠点の活動

- 平成30年8月にフィリピン・イースト大学カロカン校に「創価大学フィリピン事務所」を設置した。同事務所では、日本への留学を考えているフィリピン人学生への情報提供や相談等に応じるとともに、本学学生がフィリピンに留学した際のサポートや短期英語研修の運営、フィリピン国内の協定を結ぶ大学との連携強化に取り組む。本学の海外拠点は、中国、タイ、韓国に続いて4か所目となる。
- 平成30年6月に本学で「平和のために知識を智慧に変換する学生中心の教育学」とのテーマで、本学とタマサート大学(タイ)との共同セミナーを開催した(同大学との共同セミナーは2回目)。同大学のキャンパスに本学のタイ事務所が開設されている。



〈フィリピン事務所開所式〉

○ 語学教育の成果

- 本学が設定した外国語力基準(TOEFL iBT® 80相当以上)を達成した学生は、平成25年度(本事業開始前)の296名から平成30年度には1228名と4.1倍(全学生の15.9%)に増加した。本学ラーニング・コモンズにおける語学力養成のための課外プログラムや、各学部が提供する英語による専門科目及び海外語学研修プログラム等を提供した。
- 外国語による授業科目は平成25年度(120科目)から平成30年度(623科目)にかけて5.2倍と増加した。

ガバナンス改革関連

○ グローバル・コア・センターの機能

- 本事業及び大学のグローバル化を恒常的に推進する機関として平成28年に設置されたグローバル・コア・センターでは学部、大学院、研究所及び各部署との連携を図り、「グローバル・コア・センター会議」(月2回程開催)で、本学国際化に関する教育、研究等の事項を審議し事業を推進している。また、各学部長、研究科長を対象に「グローバル教育推進会議」「大学院グローバル教育・研究推進会議」をSemester毎に開催し、事業の進捗へ向けた協議を行っている。
- 本学では大学の取り組みについて「学生参加」を方針として明示しており、本事業においても「内部評価委員会」に学生代表が出席する他、事業進捗に関する「意見交換会」を行っている。

○ 外国人教員の増加

- 令和元年5月1日時点において、外国人教員等は、全教員352名のうち196名(55.7%;本事業開始前の平成25年度は43.3%)に、外国人職員等は全職員232名のうち29名(12.5%;平成25年度は2.4%)に増加した。

教育改革関連

○ English Medium Program (EMP) の拡大

- 英語で卒業可能なEMPは、平成30年度に経営学部、法学部、文学部、国際平和学研究科の4コースを新設した。平成25年度1コースから平成30年度には11コースに拡大した。

○ 共通科目「世界市民教育科目群」の開設

- 平成30年度カリキュラム改正に際して、平和・環境・開発・人権をテーマとした「地球市民教育」のための科目群として、「世界市民科目群」の新設した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ アフリカ諸大学との交流拡大等

・ 文部科学省「私立大学ブランディング事業」で本学が共同研究を進めるエチオピアのインジバラ大学とバハルダール大学と研究交流を推進し、研究者、大学院生等の交流を推進している。アフリカとの交流協定大学は9ヶ国13大学となり、平成30年度は36名の学生をアフリカに派遣した(事業開始前の平成25年度は13名)。

○ グローバル企業就職者数

・ 米国経済誌「フォーチュン・グローバル500」ランクイン企業等に内定・就職した学生は、平成25年度(事業開始前)103名から平成30年度160名へと1.6倍に増加した。

○ 海外大学院合格者数の増加

・ 海外大学院に合格した学生は平成25年度(事業開始前)30名から平成30年度47名と増加した。主な大学院は、米国のフロリダ大学、イリノイ大学、コロンビア大学、アメリカ創価大学、オーストラリアのクイーンズランド大学、ニュージーランドのオークランド大学、中国の北京大学など多数。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 「国際平和学研究科」がスタート

「平和で持続可能なグローバル社会構築」に関する教育・研究を実践する「国際平和学研究科」が平成30年度にスタートした。国際公募等で採用した専任教員8名を配置(外国人教員は7名)した。同研究科での授業・研究はすべて英語で行われる。

○ 「G20研究会議」を開催

令和元年6月に大阪で開催される20カ国・地域(G20)首脳会議に向けた研究会議が、平成30年12月10日に本学で開始された。本学平和問題研究所とトロント大学G20研究グループ、グリフィス大学アジア研究所、ロシア大統領府国家経済行政アカデミーが共催し、外交官、研究者、実務家ら約30名が参加。世界経済、ジェンダー、持続可能な開発、気候変動などのテーマで分科会を開催した。



〈 G20研究会議の様相 〉

○ 「THE大学世界インパクト・ランキング」に世界総合100-200位(国内4位同率)にランクイン

世界の主要な大学ランキングを発表するイギリスの教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーションによる「THE世界大学インパクト・ランキング」が平成31年4月に公表された。このランキングは、国連が定めるSDGsの各目標を指標とし、研究や取り組み実績で世界の大学をランク付けし、本学が以下の通りランクインした。

・世界総合100-200位(国内4位同率)

・SDG目標16「平和・公正」:世界61位(国内3位) ・SDG目標17「パートナーシップ」:世界95位(国内8位)

* その他、「質の高い教育」「働きがい・経済成長」など、複数の目標にランクイン

○ 本学学長が東南アジア高等教育協会(ASAIHL)の副会長に就任

・ 平成30年12月、馬場善久学長がASAIHL第2副会長に就任した。
なお同協会の年次総会を同年3月に本学で開催している(日本で初)。

■ 自由記述欄

○ 国際会議・コンテスト等への学生の参画(主なもの)

・ 「World Robot Summit 2018」(平成30年10月)のパートナーロボット(バーチャルスペース)部門で、崔研究室の「SOBITS」が世界第2位を獲得。

・ 「Girls20サミット2018 国際女性会議」(平成30年12月)に日本代表として本学学生が参加(本学からの参加は4年連続)。このサミットは、ビル・クリントン元アメリカ大統領が、次世代の女性リーダーの育成を目的に設立した「クリントン・グローバル・イニシアチブ」が2009年に立ち上げた国際女性会議で、9回目となる今回はG20加盟国を中心に25カ国・地域の女性代表が集った。

・ インドネシアで開催されたInternational Young Inventors Awards 2018(平成30年9月)に初の日本人チームとして国際教養学部の学生6名が参加し、世界15カ国・317団体の中で唯一、総合金賞、ベストプレゼンター賞、国際優秀発明賞を同時に受賞。



〈 World Robot Summit 2018 で世界第2位 〉



〈 Girls20サミット2018 国際女性会議に日本代表として参加[本学の参加は4年連続] 〉